

JAみねのぶ

10月号



コープさっぽろ組合員親子が稲刈り体験
(八田重忠さん圃場、美唄市峰延町峰樺3区、9月8日)

■発行日/令和6年10月1日/No.1470号

■発行/峰延農業協同組合

〒079-0192 美唄市字峰延37番地

Tel 0126(67)2111 Fax 0126(67)2793

ホームページアドレス <http://www.ja-minenobu.or.jp/>

■編集/総務課 ■印刷/空知印刷株式会社

J Aみねのぶ祭（第30回農産物消費者交流会）

5年振りに開催する

8月25日（日）、コロナ禍のため休会していましたJAみねのぶで開催されました。JAみねのぶの農産物のPRと生産者と消費者の交流の場にしようと開催を続け通算で30回目になります。

バスカッピ狩りに訪れた消費者の皆さんに開催案内を郵送したほか、JA組合員の皆さんにはファクス、地域の皆さんには新聞折込チラシ、JA事務所内にはポスターを貼り周知し、多くの方々が訪れていました。

挨拶をする伊藤組合長



伊藤組合長は開会挨拶の中で「コロナにより5年振りの開催となります。いたらない点もあるうかと思いますが、皆さん楽しんでもください。」と述べました。

新鮮な野菜の販売のほか、バスカッピ生産部会から野菜やバスカッピジュース、峰延手打ちそば愛好会の手打ちそば、気ままな主婦の会のとり飯、峰千加・華やぐのSweet's、JA青年部＆ボプラ会のフライドポテトやつくね、また、地元のお店から酒房たつみのジンギスカンうどん、手羽先、

NPO法人EfY（エフィー）の米粒アイスの試食提供、キッチンカー中道ファームの米粉からあげ、ワッフル、JAからビール、峰延産の米等を販売しました。

毎回好評の野菜の詰め放題は、今回も500円でいも・玉ねぎの詰め放題、枝豆しばりを行い、開始前の受付に長蛇の列ができました。

近隣JAの青年部対抗綱引き大会の予選が始まると会場の皆さんは迫力のある熱戦に見入っていました。参加チームは、月形、いわみざわ、南幌、美唄、峰延の全5チームで優勝決定戦は美唄と当JAで行われ、熱戦の末、JA美唄が優勝し、賞金が手渡されました。

次に、野菜重量当てクイズを行いました。

最後に、大抽選会が行われました。会場は多いに盛り上がり、一等奖賞5万円の旅行券が当たった方も大変よろこんでいました。

JA組合員の皆さんも多く来場し、米収穫前の晩夏のひと時を過ごしていました。

閉会の挨拶は、高田専務理事が来場のお礼と来年もお待ちしていますと述べ、午後3時に予定通り閉会しました。





10月の農協常会は農繁期のため休会します



お米を搬入している様子
(酒巻正雄さん)

受入1日目の荷受重量はななつ
ぼしとゆめぴりかで合計188、
049kgとなりました。

J Aでは10月上旬までに約4、
900㌧の受け入れを予定してい
ます。

受け入れ開始に当たり、朝礼で
高田専務は「安全第一に作業に当
たってほしい」と従業員を前に挨
拶しました。

本年の水稻は、田植え後、低温
で推移したものの、6月下旬から
天候が回復し、順調な生育となり
ました。稻刈開始は平年より早く、
8月29日からのスタートとなりま
した。

玄米ばら集出荷調製施設
9月9日から新米搬入始まる

9月9日、当JAの玄米ばら集
出荷調製施設で令和6年産米の受け
入れを始めました。

本年の水稻は、田植え後、低温
で推移したものの、6月下旬から
天候が回復し、順調な生育となり
ました。稻刈開始は平年より早く、
8月29日からのスタートとなりま
した。

本年の水稻は、田植え後、低温
で推移したものの、6月下旬から
天候が回復し、順調な生育となり
ました。稻刈開始は平年より早く、
8月29日からのスタートとなりま
した。

秋まき小麦播種前講習会

8月29日、JA大会議室で当JA営農販売課は次年度の安定生産と品質向上に向けて、小麦の播種前講習会を開き、11名の生産者が参加しました。

講師に空知農業改良普及センターの服部専門普及指導員と谷主任を招き、近年の湿害・乾燥害との対策や、R6年産の事例から最終的な穗数を想定して考える栽培体系、播種後の積算気温から考える播種時期・播種粒数についてなどを説明しました。

講習会終了後の質疑応答では参加者から様々な質問が上がり有意義な講習会となりました。



稲刈り・はさ掛け、調理 親子41人が体験

9月8日、美唄市峰延町峰樺3区の八田重忠さんの圃場で、生活協同組合コープさつぼろの組合員親子が稲刈りとはさ掛け体験を行いました。

コープさつぼろ組合員活動部と合同で行い、約41名の親子が参加しました。

農業振興課の高倉職員が稲の刈り方や収穫した稲の縛り方を説明し、当JA青年部員3名が指導に当たりました。子どもたちはJA職員やJA青年部員の指導を受けながら1株ずつ丁寧に刈り取っていました。



体験した子どもは「暑かつたけれど、楽しかった。早くお米を食べたい」と笑顔で話していました。

はさ掛け終了後は農協3階大会議室で、NPO法人Ef yのメンバー4名と「調理体験」を行いました。

当JAの「ななつぼし」を使用した、おにぎり作りや、米粒アイスを使用したパフェの飾り付け体験などが行われました。子どもたちは「体を動かした後のご飯はおいしいね」とおにぎりを頬張つていました。





防犯研修を実施（金融課）

8月29日業務終了後、本部事務

所3階会議室にて防犯研修会を実施しました。美唄警察署の生活安全係長の関口氏を講師に迎え、特殊詐欺の現状や金融機関に求める対応などの説明を受けました。

これまで高齢者が対象とされていいた特殊詐欺ですが、現在はSNSの普及に伴い、現役世代を中心にお投資詐欺（自分のお金が増えているように見せかけて投資させる詐欺）やロマンス詐欺（親しくな



つた相手の恋愛感情を利用してお金をだまし取る詐欺）が急増しています。

「きつかけさえあれば誰でも起これ得るため、身近な被害があるということをご理解いただきたい。金融機関において、利用者と日頃のコミュニケーションを図り、1%でも詐欺の可能性がある場合は声掛けし、被害を未然に防いでほしい。」と説明がありました。

高校生が

インターンシップを行う

9月19日、美唄尚栄高校の2年生6名が当JAでインターンシップ（社会体験実習）を行い、9時から14時50分まで滞在しました。

最初に、小田事業統括室長がJAの理念や役割、業務内容を説明し、次に組合長室に移り、伊藤組合長が協同組合の理念について講義を行いました。続いて車で移動し、米ばら集出荷調製施設等を見学し、午後は総務課の新田主査がパソコンを使い書類作成、データ入力を実務で体験しました。

インターナンシップ終了後、生徒の皆さんは「今回の職業体験を今後の進路選択に活かしたい」と話していました。



園児49名が稲刈り体験

JAみねのぶ青年部は9月19日、美唄市光珠内町北の吉村惇さんの圃場で、美唄アカシヤ幼稚園、美唄めぐみ幼稚園、茶志内双葉保育園、進徳保育園の園児49名を対象に稲刈り体験を行いました。

青年部営農委員長の荒井翔悟さんが稲の刈り方を説明し、園児は青年部員11名と一緒に鎌を使つて稲刈りを行いました。最初は恐る恐る稲を刈り取つていきましたが、徐々にこつをつかみ和氣あいあいと順調に刈り終えました。

収穫した稲は精米後に園児たちへプレゼントする予定です。



報徳

復興途上の急務



中村藩士高野丹吾は、尊徳翁の仕法を相馬家領内に広めたいという希望を、強く持つていて、事業の開始を懇願していた。その熱心さを誰もが認めて、藩内の他の村に先駆けて、高野が管理を任せられている成田村、坪田村の二村において、先行して仕法が開始された。両村の仕法は順調に展開し、一年後には分度外の米四百十俵を得る事が出来た。そこで高野は蔵を建ててその米を貯蔵して置き、凶作等への備えにしようとした。

それを知った尊徳翁は、高野に次のように話した。村の復興を目指すものは、そのように分度外の米を蔵の中にしまわないものだ。復興事業の初期段階にあつては、その米を、村の復興に役立てるため、使い切つてしまふくらいでなければならない。しかも、その使い方の上手さの度合いと復興の速度が関係してくる。大事な事だ。凶作や異変に備えて米を蓄積するのは、仕法が完成してからの事で良い。

相馬の仕法は、昨年始まつたばかりだから、まだまだ村の為にしていかなければならぬことが多いため。その米を使つて、仕法が上手

く行くような手立てをしつかり作る事こそ、今しなければならないことだ。この村の復興の為に、早く取り組まなければならぬことは、何であるかということを、皆と良く協議して決めて、そのことに、それを注ぎ込んでいくべきである。道路や橋や、家屋などを充分に手当てする事でも良いし、貧しい人の食料の補充でも良い。幾つもあるはずである。その中から、急いで取り組むべきこと、村にとって利益の多いことに着目し、害のあることを取り除くことなどに、余剰を進んで使い切つてしまふことである。

急いで取り組むべきことが全部済んだときには、山林を整備しても良いし、また、今後の為に、田畠の土壤の改善を行つても良い。勿論、非常事態や、飢饉、疫病などに備えるのも良い。良く考えることが肝要である。

(夜三五)

規程の一部変更について

- 取引のリスク評価書の改定について
- 理事に対する資金の貸付について

おくやみ申し上げます

倉田 英孝さん (84歳) 9月6日
美唄市光珠内町北 (85歳) 9月17日

矢部 正義さん
美唄市峰延町本町

例) 理事会において、次の事項が決議されました。

第8回(9月定例)理事会開催



**峰延農協年金友の会
パークゴルフ大会**

9月26日、峰延農協年金友の会（吉田栄会長）は三笠市岡山にある三笠市パークゴルフ場でパークゴルフ大会を行い、19名が参加し白熱したプレーが繰り広げられました。



当日は秋晴れで、動くと汗ばむほどの暖かさで、絶好のパークゴルフ日和でした。開会の挨拶を行つた伊藤組合長は、農作業はまだ繁忙期で参加人数はいつもより少ないですが、体調に気をつけて楽しんで下さいと述べました。
参加者は3組に分かれて3つのコースから一斉にスタート、日頃の練習の成果を発揮しようと真剣にプレーしていました。
熱戦の結果、今大会の優勝者は、男性部門は渡辺幹夫さん（峰延東松盛会）、女性部門は渡辺艶子さん（峰延東松盛会）で競技終了後に表彰式が行われました。

JAみねのぶ創立110周年記念のロゴマーク設定

JAみねのぶは、大正3年に『峰延産業組合』が母体となって設立され、昭和22年の農協法施行に伴い『峰延農業協同組合』として組織移行しました。本年令和6年で創立110周年を迎えます。この110周年を節目に、新たに記念のロゴマークを作成し設定しました。既に、ビールパーティーやJAみねのぶ祭で旗等に使用しています。



JA みねのぶ

記念のロゴマークはみねのぶの頭文字であるアルファベットの「M」を、「山」をモチーフにデザインしています。外側の円はJAみねのぶを取り巻く自然や田畠、そこに住む方々が一体となることを表現しています。すべてが互いに作用し合い、素晴らしい自然と成果が生まれる「一圓融合」の理念を象徴しています。

左上部の線が細くなり切れている部分は、太陽が昇り、地平線を超えた瞬間に差し込む太陽の光を象徴しています。



JA みねのぶ

110周年記念のロゴには、畑の植物を連想させる流れるようなモチーフが加えられており、長い時間を経ても変化を必要とする植物の命のサイクルを表現しています。歴史を尊重しつつ、植物が根を張るように柔軟な精神を持ち続け、さらなる繁栄を願っています。

ロゴマーク全体で数字の「110」を表現しています。

新しいロゴマークは、今後は当JAの旗、バッヂ、名刺等に使用します。

JAグループ北海道の農政活動強化に向けて

第1回 「東野秀樹」氏が組織代表に決定

全国のJAグループの農政組織である全国農政連では、現在JAグループ代表として現職である参議院議員「山田としお」氏が任期満了で退任することを受け、来年夏の参議院選挙に向けて、引き続きJAグループの候補者を擁立することとなりました。

これを受け、北海道のJAグループで組織する北海道農協政治連盟では、本道農業・JAを取り巻く環境が厳しさを増す中、「北海道から農民代表を国政に送るべき」との強い意見を踏まえ、現在ホクレン代表監事で、JA道北なよろ会長である「東野ひでき」氏を、全国JAグループの推薦候補者とすべく、擁立した経過にあります。

全国段階では、千葉県からも1名の立候補があったため、組織内で予備投票を行った結果、東野ひでき氏が全国のJAグループの組織内候補として決定いたしました。

今後、全国のJAグループの代表として活動いただくために、地元北海道として支援の輪を広げてまいりましょう。



東野ひでき公式
LINEアカウントへの
登録はこちらから

【JAグループ北海道の農政活動強化に向けて】と題し、農政活動や参議院選挙の仕組みなどを、来年夏頃まで連載いたします。

次回（第2回）は、東野ひでき氏の主張や人柄について紹介します。



東野ひでき北海道後援会

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

JAみねのぶ SDGsの取り組み

国際社会共通の目標 SDGsとは？

「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals)」の略称であり、2015年9月に国連サミットで採択された国際社会共通の目標のことです。基本理念は「誰一人取り残さない」ことで、持続可能な世界の実現を目指し、貧困や飢餓、エネルギー・環境問題などの課題を解決していくために作されました。

SDGsは17のゴール(目指す姿)と、ゴールを達成するための169のターゲット(具体的な達成基準)が設定され、目標達成は2030年までとされています。

Sustainable 持続可能な Development 開発 Goals 目標

SDGsと協同組合

SDGsの「誰一人取り残さない」という基本理念は、協同組合の「一人は万人のために、万人は一人のために」といった相互扶助の精神と深く繋がっています。

利潤の追求を目的としない協同組合は、地域の人々の協力・理解が無ければ存続できないため、地域コミュニティと一体である必要があります。

そして、その地域コミュニティへ向けた取り組みが、SDGsの目標達成のために大きく貢献していることから、協同組合はSDGs実現の重要なパートナーとして位置づけられています。

協同組合の一つである「JA」の綱領の中にも、SDGsに関連した内容が盛り込まれています。

森林整備による環境負荷低減の取組み

当JAは、美唄市光珠内町北に約3.6haの森林を所有しており、その森林は、推定4.8CO₂t(年間)の二酸化炭素を吸収しています。

今後も、森林経営計画に基づく間伐事業など森林整備の活動を通じて環境負荷低減、SDGsに取り組みます。

